

東海経済レポート（2015年5月）

～景気は緩やかな回復が続く～

経済調査室（名古屋）

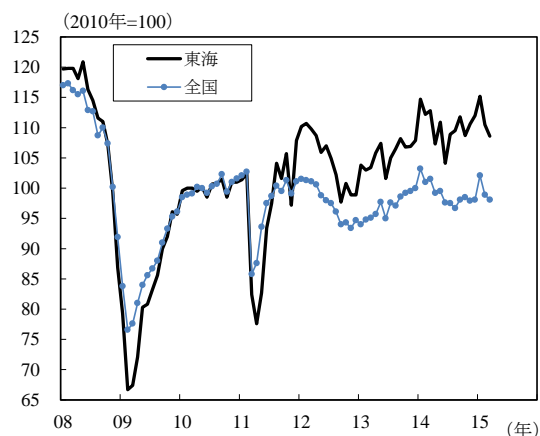
1. 足元の経済情勢

- ✓ 生産は、3月に前月比▲1.7%と2ヵ月連続で減少。業種別では、電子部品・デバイス、生産用機械、輸送機械が全体を押し下げた。
- ✓ 設備投資については、その先行指標とされる金属工作機械の国内受注額が3月に前年比+24.5%と、20ヵ月連続でプラス。
- ✓ 輸出額（円ベース）は、3月に前月比+7.3%と3ヵ月振りに増加。
- ✓ 雇用関連では、3月の愛知県の有効求人倍率が1.53倍と、6ヵ月振りに低下。岐阜県はリーマン・ショック後の最高水準で推移する一方、三重県は6ヵ月振りに低下。
- ✓ 個人消費では、3月の小売主要3業態の販売が前年比▲7.4%と、前年3月に加速した駆け込み需要の反動から11ヵ月振りにマイナスに転じた。3月の新車販売台数は前年比▲11.0%と、3ヵ月連続で2桁のマイナス。
- ✓ 住宅着工は、3月に年率換算で8.1万戸と、2014年9月以来の水準まで持ち直した。

2. 当面の注目点・リスク要因

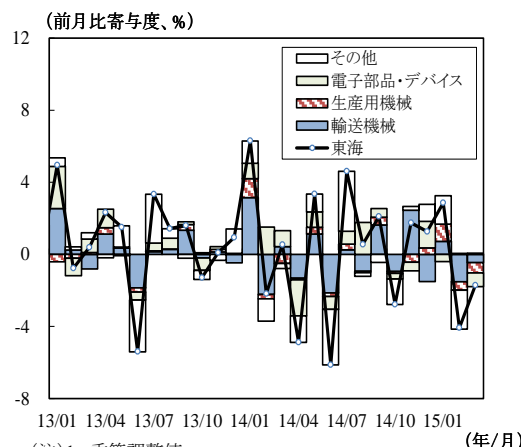
- ✓ 足元までの月次指標は、東海経済が緩やかなペースながら回復を続けていることを示唆。
- ✓ ただ、海外の動向に目を転じると、米国の金融緩和「出口戦略」開始がもたらす影響、構造調整の只中にある中国の先行き、資源価格下落とそれを背景とした資源国を中心とした新興国経済の悪化などに、留意が必要な状況である。
- ✓ 東海経済にとっての当面の注目点は、①業績改善の大きい企業・産業を起点として域内全体の賃金・給与等の上昇率が高まり、また、国内設備投資が拡大することなどを通じて、好影響が地域内へ広く波及していくかどうか、②資源国経済・金融市場の変調が地域経済へ悪影響を及ぼすことはいか、などと考える。

生産① 3月の鉱工業生産指数は前月比▲1.7%と2ヵ月連続で減少。



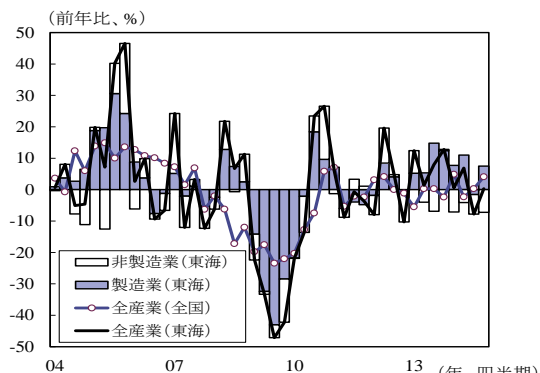
(注)1. 季節調整値。
2. 東海は愛知、岐阜、三重の3県。
(資料)中部経済産業局「管内鉱工業の動向」等より
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

生産② 業種別では、電子部品・デバイス、生産用機械、輸送機械が全体を押し下げた。



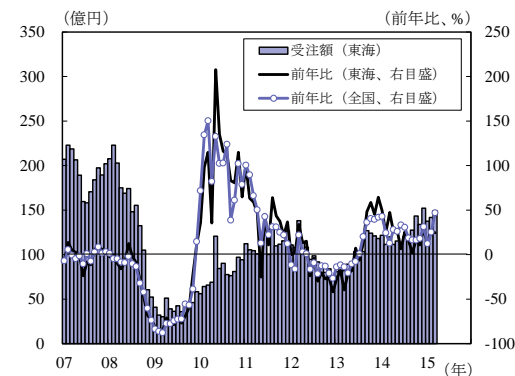
(注)1. 季節調整値。
2. 東海は愛知、岐阜、三重の3県。
(資料)中部経済産業局「管内鉱工業の動向」等より
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

設備投資 10-12月期の資本金10億円以上の大企業の設備投資(除くソフトウェア)は、前年比+0.3%と、小幅ながらプラスへ転じた。



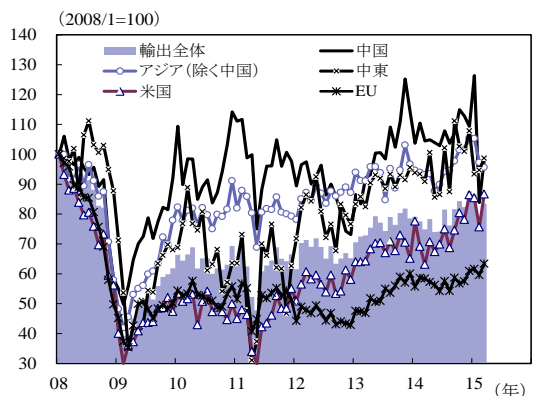
(注)1. 東海は愛知、岐阜、静岡、三重の4県。
2. 資本金10億円以上の企業を対象。
(資料)東海財務局「四半期別法人企業統計調査」より
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

金属工作機械受注(国内) 設備投資の先行指標とされる金属工作機械の国内受注額が3月に前年比+24.5%と、20ヵ月連続でプラス。



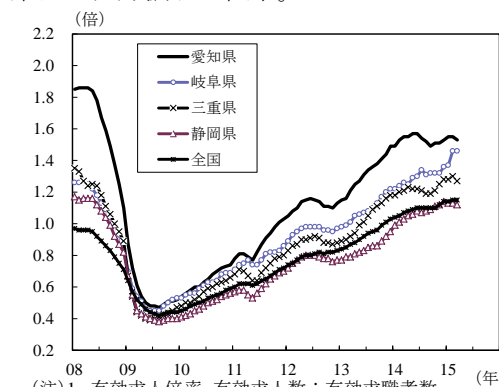
(注)1. 東海は中部経済産業局管内の主要8社。
2. 受注額は当室による季節調整値。
(資料)中部経済産業局「金属工作機械受注状況」等より
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

輸出 3月の輸出額(円ベース)は、前月比+7.3%と3ヵ月振りに増加。



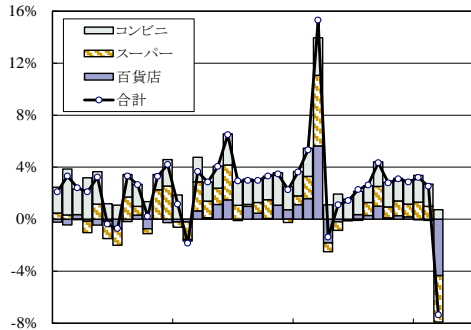
(注)1. 当室による季節調整値。
2. 愛知、岐阜、三重、静岡、長野の5県。
(資料)名古屋税関「管内貿易概況」より
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

雇用 3月の愛知県の有効求人倍率は1.53倍と6ヵ月振りに低下。岐阜県はリーマン・ショック後の最高水準で推移する一方、三重県は6ヵ月振りに低下。



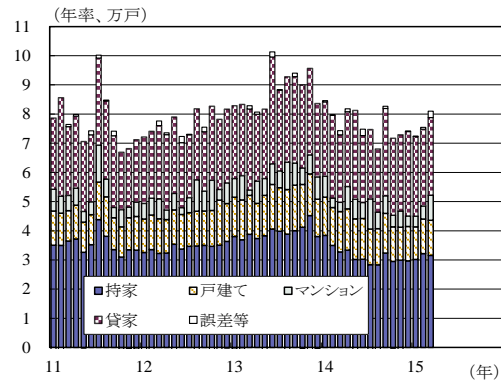
(注)1. 有効求人倍率=有効求人数÷有効求職者数。
2. 季節調整値。
(資料)厚生労働省「一般職業紹介状況」より
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

個人消費 3月の小売主要3業態の販売は前年比▲7.4%と、前年3月に加速した駆け込み需要の反動から11ヵ月振りにマイナスに転じた。



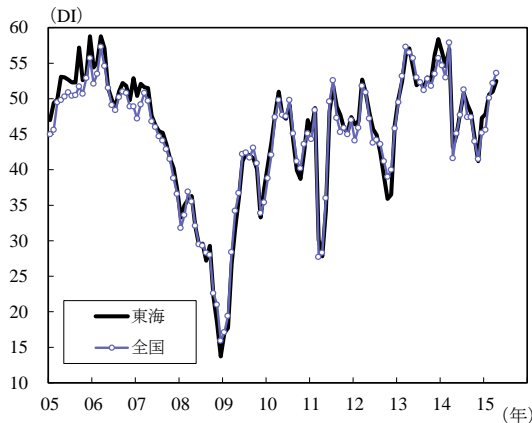
(注) 1. 愛知、岐阜、三重、富山、石川の5県。
2. 当室による季節調整値。
3. 2014年4月からは、消費増税分の3%が上乗せ。
(資料) 中部経済産業局「管内大型小売店販売概況」より
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

住宅投資 3月の住宅着工戸数は年率換算で8.1万戸と、2014年9月以来の水準まで持ち直した。



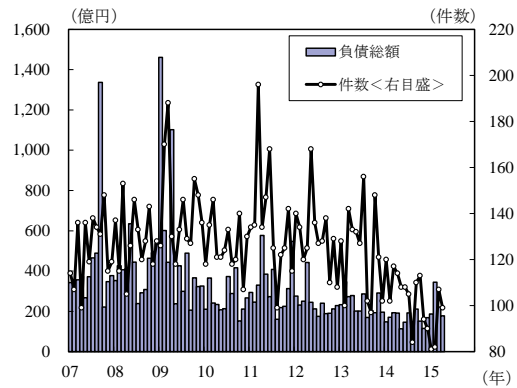
(注) 愛知、岐阜、三重の3県。季節調整値は当室試算。
(資料) 国土交通省「建築着工統計」より
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

景気ウォッチャー調査 4月の景気現状判断DIは52.5と、5ヵ月連続で上昇。



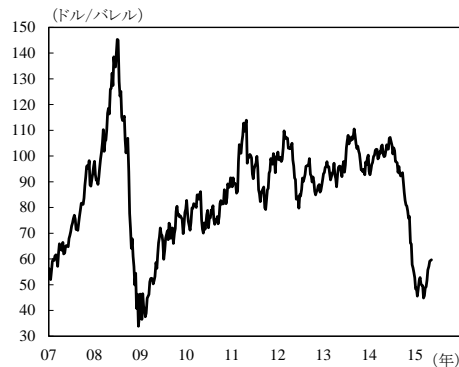
(資料) 内閣府「景気ウォッチャー調査」より
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

倒産件数 4月の企業倒産件数は99件と、前年比▲13.2%の減少。負債総額は同▲6.8%と4ヵ月振りに減少。



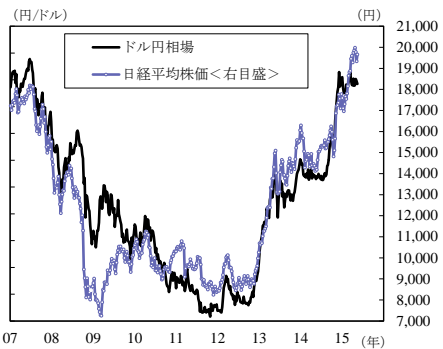
(注) 愛知、岐阜、三重、静岡、長野の5県。
(資料) 東京商工リサーチ「倒産月報」より
三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

原油価格 米国の石油掘削装置の稼働数の減少や、中国の追加金融緩和などによって中国経済に対する過度な懸念が後退したこと等を受け、WTI先物は60ドル程度まで反発。



(注) 原油価格はWTI先物。
(資料) Bloombergより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

円相場・株価 為替相場はほぼ横ばいで推移。弱めの米国経済指標を受けてFRBの早期利上げ観測が後退する一方、欧米長期金利が上昇し、対円でドルを下支え。日経平均株価は、決算発表の本格化から様子見姿勢が強まり、20,000円前後で推移。



(資料) Bloombergより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

(H27.5.21 富田 潤 jiyun_tomida@mufg.jp)

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の売買や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。